

実録！「未来への提案」発表会

IB通信、20号に突入です。毎回コッテリした内容でお届けしてきましたが、「IB通信いつも読んでいますよ！」と声を掛けてくださる方が生徒や保護者の方にもいらっしゃることが励みになっております。いつもありがとうございます。

飛び飛びに目を通していただいているという方も、その号に関連した内容のものはリンクでつけるようにさせていただいておりますので、興味の湧いた際にご覧いただければ十分です。

説明的な内容は次年度また書き直すのではなく、リサイクルしていこうと今の所は考えています。

さて前号では、2学年の「未来への提案（総合的な学習の時間）」の発表会開催のお知らせをさせていただきました。（[鹿中IB通信NO.19](#)）

臨休明け初日に、リハーサルなど直前の大詰めが満足にできない中立派なホールでの発表会です。

さてこのほとんどぶっつけ本番の窮地、、、彼らは果たして、、、！？ということでしたが、実際、、、良い意味で予想を裏切られました。とても良い発表でした！

私がここで語るより、実際に見ていただいた方が早いでしょう。許可を得た3グループの発表を共有させていただきます。

当日見逃したみなさまは是非コチラのリンクよりご覧ください。
→[未来への提案発表の様子リンク](#)

ちなみに本単元の評価基準は以下の通りとなっております。こちらを踏まえてご覧ください。

プレゼンテーションの評価基準《内容面》

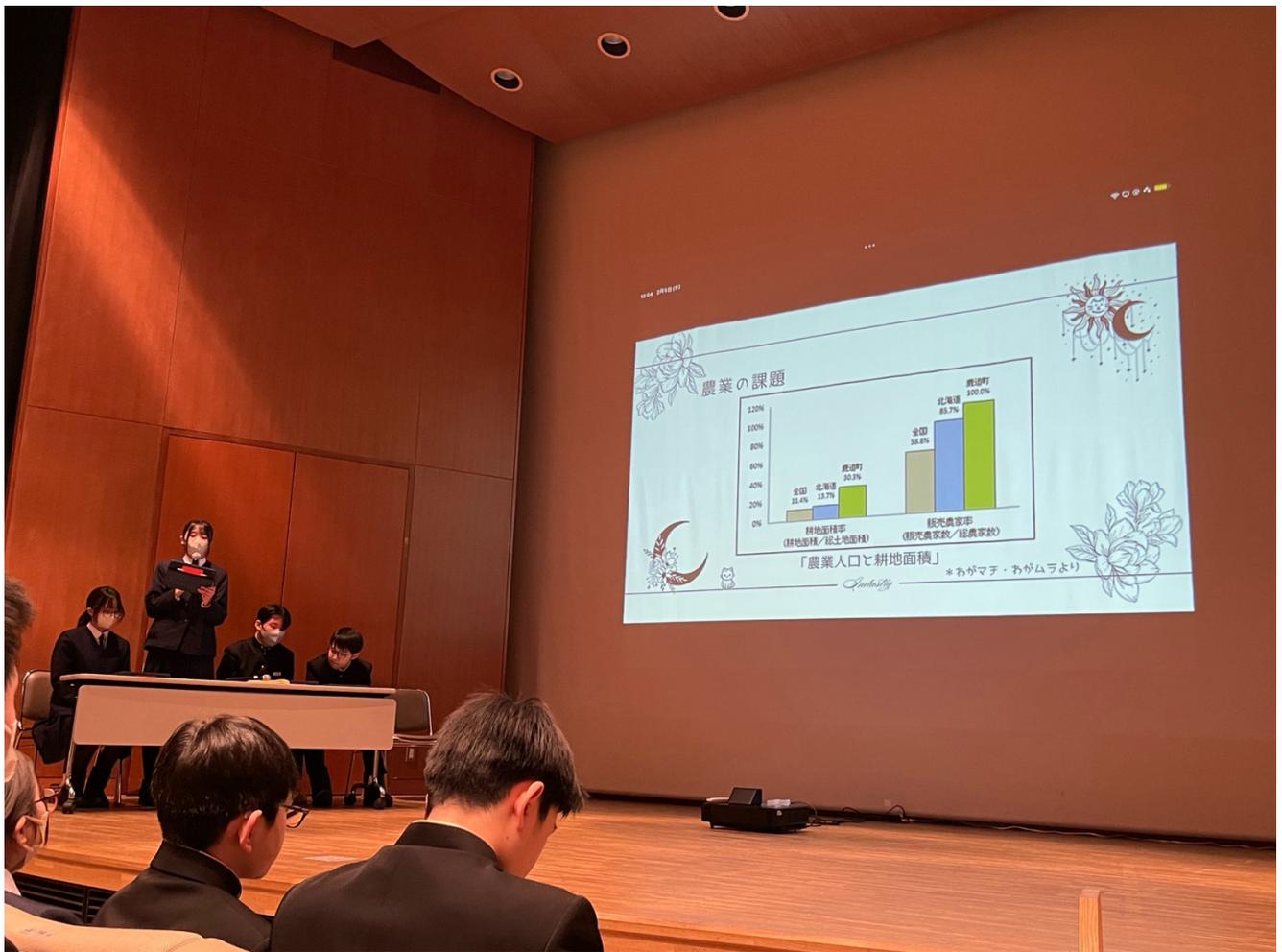
評価基準	説明	評価
課題理解	調べるコミュニティの課題について、どれくらい理解できているかを見ます。課題発生の原因や与える影響について多角的に理解し、その課題を解決すべき重要性を示しているかがポイントです。	
解決策の独自性	提案する解決策がユニークで、自分の考えや工夫が反映されているかを評価します。聞き手の興味関心を誘う効果的な内容を目指しましょう。	
実現可能性	解決策が実際に実行可能で、現実的なプランになっているかどうかを評価します。	
データ・根拠	調査やリサーチに基づく根拠や、他のデータ等を用いて説得力を持たせているかを評価します。	
やる気・工夫	この活動に対してのあなたの努力や積極性を見ます。期限を守るなどの計画性や協力してくれる人への態度なども含まれます。	

プレゼンテーションの評価基準《表現面》

評価基準	説明	評価
スライドの見やすさ	スライド全体の構成がわかりやすく、文字や情報が見やすく整理されているかを評価します。	
視覚資料の活用	グラフや画像など視覚的な資料を効果的に使い、内容を理解しやすくしているかを評価します。	
話す姿勢・態度	声の大きさやトーン、目線など、プレゼンテーションに対する取り組み姿勢がしっかりしているかを評価します。	
聴衆への配慮	聴衆にわかりやすく伝えようとする工夫や配慮ができているかを評価します。	
チームワーク	この活動に対してのグループ全体の努力や積極性を見ます。作業量や取り組みの態度について、メンバーの誰かが不公平感を感じているような状況は避けましょう。	







実力の秘密

ご覧いただけましたか？いかがでしょう。もちろんまだまだ伸び代はありますが、彼らの成長・実力を頼もしく思われたことでしょう。毎日一緒に過ごす私たち教員ですら驚いてしまったほどですから間違いありません。

この成長ぶりの「原因」について少し分析してみます。

この取組に割り当てられた授業時数は、発表会に割り当てられたコマ数を引けば**実質 15 コマ程度**です。

もちろんこの時間内の努力だけでこれだけの課題解決能力や制作技術、プレゼン力を身に付けることはできません。

一方で、年間の授業時数はおよそ**1000時間**もあります。

この日常の学びが「ほとんど繋がっていない」のが現在の日本の学校教育の課題であり、

これらを「**繋げる**」枠組みに優れているのが IB 教育の本質的な特徴の一つであり、TEAM 鹿追が頑張っている所です。

本校の例を挙げれば、

国語科や英語科で行われたプレゼンテーションの内容面や表現面についての探究であったり、

社会科や理科の課題の設定内容や、その成果物をはかる評価基準の中身であったりと、「繋げる」ということを約束事として、各教科が知恵を絞って授業を展開しているのです。（末尾に上記の実例を載せておきます。お時間があれば目を通していただければ幸いです。）。

そしてすべての教科の学び（あるいは各行事の取組）が集約していった結果がご覧いただいた子どもたちの姿であり、彼ら2年生が卒業するまでに更に1000時間強もの時間を通してこのスタイルの学びは続きます。

残り一年で彼らが更にどこまでの成長を見せてくれるのか、楽しみです。この発表会を参観してくれた一年生もまた、2年生の姿に刺激を受けながらそれに続いていくことでしょう。

最後に忘れてはいけない要素がもう一つあります。それは子どもたちと先生方がそこに「一生懸命取り組んでいる」ということです。

教員にとって、教科書でそのまま教える授業に比べ、こうした授業に向けた準備はなかなか大変なことです。

それでもその努力を継続してくださる先生方と、それに正面から応えようとしてくれる鹿追中の生徒のみなさんがいることが何よりの「原因」だと私は考えます。子どもたちの成長が教員にとって最大のモチベーションです（更にお給料も上がれば言うことではないのですが…）。

今回のように子どもたちの学びの成果・成長ぶりを見ていただける機会を通して、地域・保護者のみなさまから労いやお褒めのお言葉をいただくこともまた、子どもたちと先生方にとって大きな励みとなるはずです。

機会があれば是非！本校生徒と先生方に一言、そうしたお声かけをいただければ幸甚です。この通信も、そうした好循環を生み出す一助となれていれば嬉しいです。どうなんでしょう…？

最後までお読みいただき、ありがとうございました。

※オマケ：前述の通り、総合的な学習の時間に繋がっていく各教科の取組の資料を一部ご紹介します。↓

【プレゼンテーション20の技術】

<p>A 基礎系列 (基本的な技術や態度)</p>	<p>① 姿勢…背筋を伸ばす、胸を張るなど、良い姿勢で堂々とできていたか。←</p> <p>② 呼吸…たっぷり息を吸って話せていたか。←</p> <p>③ 発声…適切な音量で話せていたか。(しっかり聞こえたか。)←</p> <p>④ 口形…口をしっかり開けて、ハキハキ話せていたか。←</p>
<p>B 抑揚系列 (一本調子にしないよう、変化をつける)</p>	<p>⑤ 声量の大小…大事なキーワードは大きく言うなど、声量に大小をつける。←</p> <p>⑥ 速度の緩急…大事なところはゆっくり言うなど、話すスピードを変える。←</p> <p>⑦ 音声の高低…大事な内容は低く、楽しい内容は高くなど、声のトーンを変える。←</p> <p>⑧ 適切な間…集中してほしいときに間を空けるなど、何も言わない時間を作る。←</p>
<p>C 構成系列 (わかりやすくするため、順番を組み立てる)</p>	<p>⑨ 序本結…序論(1~2割)、本論(6~8割)、結論(1~2割)。←</p> <p>⑩ ナンバリング…「~は〇つあります。一つ目は~。二つ目は~。」←</p> <p>⑪ ラベリング…ひとまとまりの主張をキーワードでまとめる。←</p> <p>⑫ オリエンテーション…本題に入る前の「ツカミ」。←</p>
<p>D 叙述系列 (説得力を高めるための情報)</p>	<p>⑬ エピソード…自分の体験談。←</p> <p>⑭ データ…数字やグラフ。←</p> <p>⑮ オブジェクション…予想される反論や例外を先に述べ、それに反論する。←</p> <p>⑯ ツール…パワーポイント、フリップなど、視覚化する。←</p>
<p>E 聴衆系列 (聞き手を意識し、聞き手に近づく)</p>	<p>⑰ アイコンタクト…顔を上げて、聴衆の方を見る。←</p> <p>⑱ ジェスチャー…身振り手振りを加える。←</p> <p>⑲ ダイアログ…聞き手に話しかけたり、質問したりする。←</p> <p>⑳ ユーモア…笑いをとる。←</p>

SELF EVALUATION SHEET ←

1 INTRODUCTION ←

発表を聞いて、以下のポイントができていたかについてグループで話し合い□の中に✓チェック入れていきましょう。 ←

評価項目 ←	達成条件 ←	みんなが考えた達成のための具体的な姿の例 ←	5段階評価 ←
声の大きさ&目線 ←	聞き手にとって聞こえやすい声の大きさと目線を意識することができている ←	<input type="checkbox"/> 声の大きさが適切だった <input type="checkbox"/> 前を見て話せている <input type="checkbox"/> 目を見て話せていた ← <input type="checkbox"/> 耳に通る聴きやすい声だった <input type="checkbox"/> 姿勢に気をつけていた <input type="checkbox"/> 英語ノドを意識できていた（喉を開く） <input type="checkbox"/> 原稿を暗記できていた。 <input type="checkbox"/> その他 ←	←
発音（今回はFとR!） ←	「F」と「R」の発音を意識することができていた ←	<input type="checkbox"/> f/r など発音に気をつけることができていた。 <input type="checkbox"/> 棒読みにならないようにしていた。 ← <input type="checkbox"/> □を大きく開けてはっきり話すようにしていた。 ← <input type="checkbox"/> その他 ←	←
魅きつける、楽しませる ←	表現力を発揮し聴衆を惹きつけたり楽しませる発表ができていた ←	<input type="checkbox"/> ジェスチャーを入れていた <input type="checkbox"/> 明るい表情だった <input type="checkbox"/> 爽やかだった <input type="checkbox"/> 世界観に入り込ませることができていた <input type="checkbox"/> 話のテンポが早くなりすぎないように気をつけていた <input type="checkbox"/> 自分自身も楽しめていた <input type="checkbox"/> 問いを入れるなど聴衆を巻き込む工夫があった <input type="checkbox"/> スティーブジョブスの様な堂々たる語り口だった。 ← <input type="checkbox"/> 相手の反応を見ながら「あれ？」って雰囲気なら盛り上げたりしていた <input type="checkbox"/> その他 ←	←
内容 ←	聞き手の興味関心を誘う効果的な（面白い）内容構成であった。 ←	<input type="checkbox"/> オーディエンスが「へえ!」「なるほど!」となるポイントがあった。 ← <input type="checkbox"/> オーディエンスがクスリと笑えるポイントがあった。 ← <input type="checkbox"/> 斬新なアイデアが含まれていた。 ← <input type="checkbox"/> 斬新な伝え方が含まれていた。 ← <input type="checkbox"/> 内容が十分にあった（量）。 ← <input type="checkbox"/> 文字ばかりじゃなく画像や動画を入れた。 ← <input type="checkbox"/> 説明に聞き手が知らない言葉や英単語を入れすぎていなかった。 <input type="checkbox"/> スライドの字の大きさに気をつける。 ← <input type="checkbox"/> もっと見ていたい!と思うような内容だった。 ← <input type="checkbox"/> 専門用語には説明を入れるなどする。 ← <input type="checkbox"/> わかりやすい説明だった（くどくない） <input type="checkbox"/> その他 ←	←

総合して、発表者の推しに興味を湧いた度（5段階評価） → _____ ←

英語科でのプレゼンテーションの探究 ↑

2年生 UNIT3

あなたは、鹿追町役場観光課の役員です。

あなたが対象とする相手は「他町村に住む人々」です。

(1) 身近な地域の特色を調査し他地域との違を比較・分析する (2) 身近な地域の特色とは何か他町村に住む人々に明確に示すことができるようにする PR 動画を公開しなければなりません。

身近な地域の特色とは何かを鹿追町の PR 動画という形で作り出さなくてはなりません。そこでは、手順の概略を順番に述べなさい。PR 動画には、概要や図解の形式を添付しても構いません。

あなたの考察した結果は、良い計画の規準に正確かつ完全に則っていかねばなりません。比較し内容を適切に分析・整理しなさい。また、その内容をレポートにまとめ、明瞭かつ正確に述べる必要があります。

A「知識と理解」はここを見る！

①社会科で習った用語を使うこと：授業で習った言葉を使って考えを表現することが求められます。

②科目ごとの内容と概念についての知識と理解を示すこと：授業で学んだ内容や考え方について、レポートやプレゼンを通じて理解を示すことが必要です。

それぞれのレベルでは、これらのスキルをどれだけ理解し、実践できるかが評価されます。0が一番低く、7～8が一番高い評価です。

B「調査探究」はここを見る！

①明確で絞られた研究課題を設定すること：研究を行うために、具体的で関連性のある課題を選びます。

②研究課題に向けた行動計画を策定し実践すること：どのような方法で研究を進めるか計画し、その計画通りに行動します。

③関連性のある情報を収集し記録すること：研究に必要な情報を集め、整理して記録します。

④先生からのアドバイスを受けて、研究を評価すること：指導やアドバイスを受け、研究方法や結果を評価し改善します。

それぞれのレベルでは、これらのスキルをどれだけ理解し、実践できるかが評価されます。0が一番低く、7～8が一番高い評価です。

社会科の総括的評価課題の概要説明↑

Unit1 「生命 生物の体のつくりとはたらき」

全 25 時間

	内容・評価課題
導入	ガイダンス
通常授業	生物の体の成り立ち、細胞のつくり、光合成、日光がない時の葉の仕事・単子葉類と双子葉類の断面、道管と師管/蒸散の計算、食を通じた生命の維持・唾液とデンプン、消化酵素の4コマ漫画、動物の呼吸、不要な物質のゆ _く え、物質を運ぶ、演習問題への取り組み、感覚器官と刺激
総括的 評価課題	総括的評価課題取り組み 「栄養バランスの良い食事を取る必要性を科学的視点からプレゼンする」
まとめ	章末テスト、入試問題取り組み（肺の模型）、単細胞生物と多細胞生物のどちらに生まれたいかを論理的に述べる会

評価規準 A：知識と理解 【評価材料】

- I. 科学的知識を詳しく述べる
- II. 科学的知識および理解を用いて、なじみのある状況およびなじみのない状況で設定された問題を解決する
- III. 情報を分析して科学的に裏付けられた判断をすること

評価規準 D：科学的影響の振り返り 【評価材料】

- I. 具体的な問題または課題に対処するために科学を応用および利用する方法を詳しく述べる
- II. 具体的な問題または課題を解決する際に、科学およびその応用を用いることのさまざまな意味を議論して分析すること
- III. 科学的言語を効果的に用いること
- IV. 他者の成果と用いた情報を記録すること

理科の総括的評価課題の概要説明 ↑

※ここまで読み切った人は相当な強者です！

バックナンバー	概要
<p>鹿中 IB 通信 NO.1</p> <p>↑クリックするとアクセスできます。</p>	<p>この通信の趣旨や国際バカロレアとは何か?について書いています。</p>
<p>鹿中 IB 通信 NO.2</p>	<p>年度当初に行った生徒向けの IB オリエンテーションについて書いています。当日の動画や資料も見られます。</p>
<p>鹿中 IB 通信 NO.3</p>	<p>こちらは保護者向けの IB オリエンテーションと、同日行われた参観授業（国語）を IB 視点で解説しています。</p>
<p>鹿中 IB 通信 NO.4</p>	<p>参観授業紹介第二弾です。理科の授業の内容を《概念》と絡めて書いています。</p>
<p>鹿中 IB 通信 NO.5</p>	<p>参観授業紹介ラストです。社会と保健体育の授業の内容から《IB で知識の定着にかける時間が減る問題》に対する工夫について紹介しています。</p>
<p>鹿中 IB 通信 NO.6</p>	<p>IB 教育の大きな柱であるATL スキルと 10 の学習者像とはどういったものかについて、道徳の授業実践を元に解説しています。</p>

<p><u>鹿中 IB 通信 NO,7</u></p>	<p>十勝毎日新聞の記事になったというお話と、1学年の Unit1 総括的評価課題の概要一覧を紹介しています。</p>
<p><u>鹿中 IB 通信 NO,8</u></p>	<p>子どもたちが「総括的評価課題」に取り組む様子の紹介と、2学年の Unit1 総括的評価課題の概要一覧を紹介しています。</p>
<p><u>鹿中 IB 通信 NO,9</u></p>	<p>「SA」「CP」についての説明の前段としてのお話と、3学年の Unit1 総括的評価課題の概要一覧を紹介しています。</p>
<p><u>鹿中 IB 通信 NO,10</u></p>	<p>「SA」についての具体的な説明や生徒たちの夏休みの宿題について書いています。</p>
<p><u>鹿中 IB 通信 NO,11</u></p>	<p>「コンサルタント訪問」についての説明や面談に向けての生徒や保護者のみなさまとのやりとりについて書いています。</p>
<p><u>鹿中 IB 通信 NO,12</u></p>	<p>「コンサルタント訪問」の実際の中身と主に生徒たちの面談での応答について紹介しています。</p>
<p><u>鹿中 IB 通信 NO,13</u></p>	<p>「文化祭と日常の学びの繋がり」について書いています。《前編》</p>
<p><u>鹿中 IB 通信 NO,14</u></p>	<p>「文化祭と日常の学びの繋がり」について書いています。《後編》</p>

<u>鹿中 IB 通信 NO.15</u>	「コミュニティプロジェクト」 についての説明と発表会の告知をしています。
<u>鹿中 IB 通信 NO.16</u>	2学年の総合的な学習の時間 「未来への提案」 の内容と目的について紹介しています。
<u>鹿中 IB 通信 NO.17</u>	保護者懇談会の中身と生徒の総括的評価課題の 成果物 について紹介しています。
<u>鹿中 IB 通信 NO.18</u>	2学年の総合的な学習の時間 「自分探究プロジェクト」 の内容と目的について紹介しています。
<u>鹿中 IB 通信 NO.19</u>	2学年の総合的な学習の時間 「未来への提案」 の発表会のお知らせをしています。